

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 25 年 3 月 15 日)

【一七】季康子<sup>きこうし</sup> 政<sup>まつりごと</sup>を孔子<sup>こうし</sup>に問う。孔子<sup>こうし</sup>対えて曰く、政<sup>せい</sup>は正<sup>せい</sup>なり。子<sup>し</sup>帥<sup>ひき</sup>いるに正<sup>ただ</sup>しきを以てせば、孰<sup>たれ</sup>か敢<sup>あえ</sup>て正<sup>ただ</sup>しからざらんと。

季康子は季桓子の子供です。孔子は季氏一族に関して不快の念を持っていました。

季康子が「どのように政治を行えばよいか」と孔子に尋ねました。孔子は「政治とは正しいことを行うもの。トップが国民を指導して行く時に、身を以て正しいことを率先して行えば、誰がわざわざ悪いことをするものか。あなたが自分自身を正していないから、国民が悪さをするのだ」と答えました。

【一八】季康子<sup>きこうし</sup> 盗<sup>とう</sup>を患<sup>うれ</sup>えて、孔子<sup>こうし</sup>に問う。孔子<sup>こうし</sup>対えて曰く、苟<sup>いやく</sup>も子<sup>し</sup>にして不<sup>ふ</sup>欲<sup>よく</sup>ならば、之<sup>これ</sup>を賞<sup>しょう</sup>すと雖<sup>いな</sup>も窃<sup>めす</sup>まざらんと。

季康子は国民の中で泥棒をする連中が多いけれど、どうしたものだろうと聞いていますが、孔子は腹の中で「あなたが一番の盗人ではないか」と思っているわけです。そのようなことを頭の隅に入れて、話を聞いて戴くと面白いと思います。

季氏の場合は、税収の半分を自分の私有財産にして残りの半分を三桓の孟孫氏・叔孫氏そして主君に分けました。全体の半分は自分で取り、残りの二分の一を主君と自分の親族に分けている。現在にあてはめてみると、現在の中国はこういう事をするのが当たり前のようです。習近平は主席になりそうな時に慌てて暴利を貪っている自分の親族達を隠しました。代々の国家主席達は、べらぼうな金（賄賂）が自分の懐に流れ込んでくる。色々な仕事を親族がするものだから、利権が転がりこんで来てべらぼうな金が親族全体に入ってくる。いつまでも権力者であり続けないと、すぐ叩かれ殺されて没収されてしまう。みんな自分の子飼いを置いておかないとやられるというのを国民は知っています。日本を叩く場合は自分のうっ憤を晴らして、あわよくばおこぼれが欲しいと思いやっています。孔子の頃から連綿とその様な仕組みで動いているので、中国はそうそう変わりはないだろうと思います。

季康子は、「我が国には盗賊が多いので、どうすればよいか」と孔子に尋ねました。孔子は「あなたが無欲であれば、褒美を出すからと言っても国民は恥じて盗みはしないものだ。トップが強欲だから、民も真似て私利私欲を貪るものだ。自分自身の身を正しなさい」と答えています。

【一九】季康子 政を孔子に問いて曰く、如し無道を殺して、以て有道に就かば如何と。孔子対えて曰く、子 政を為すに、焉んぞ殺を用いん。子 善を欲せば、民 善ならん。君子の徳は風なり。小人の徳は草なり。草 之に風を上うれば、必ず偃すと。

季康子が政治について孔子に尋ねて曰く「もし、不法行為を行った者を処刑してしまい、正しいことをする者には褒美をあげて褒めたらどうでしょう」と聞きましたら、孔子は「政治をするのに、どうして死刑を執行しようとするのだ。あなたが善いことを欲すれば、国民は善いことをするものだ。そよそよと徳の風が吹けば、国民はそよそよとした風でも草にあたれば、必ずなびくものだ。したがって善い風を吹かせばなびくし、悪い風を吹かせればなびかない。だからまず善い風を吹かせなさい」という会話です。

最近の世界の風は、天変地異の風が多いものだから、そよそよとした柔らかい風は吹かないで、大木を倒したり黄砂を巻き上げてみたり、とんでもない風が吹き荒れています。徳の風は薄い時代になったと感じます。

今日の産経新聞に司馬遼太郎が、「井上馨が賄賂を取っているのは有名だったけれど、調べて見ると貪って貰っていた。でも中国に比べたら、小さい小さい」と書いてありました。今でも残る椿山荘を山縣有朋は所有していましたが、山縣有朋のお給料だけでは椿山荘は購入できないのに、どうやって購入したのだろうか、また山縣さんは椿山荘だけではなく、全国に良い別荘をいっぱい持っていたけれども、どうやって財産を作ったのかは不思議だね。答えとしては、みんな賄賂を取っていたのを知っていたから、国民は山縣有朋の野辺の送りには行かなかったという批評が載っていました。山縣有朋が亡くなった時には国葬でしたが、参列者は義務的に参加した人が多く、一般の参列者はほとんどいなかった。司馬遼太郎の話は全体的なもので、後のは私が調べたものを付け加えました。今の日本も同じで、お上の賄賂は中国に比べれば小さいのではないかという気がします。